

YNU コーパスにおける「テシマウ」の使用の特徴

Usage Features of “te-shimau” in YNU corpus

金庭久美子・金 蘭美・曹 娜

KANENIWA Kumiko・KIM Ranmi・CAO Na

〔要旨〕

本研の目的は、YNU コーパスにおける異なるテーマの12のタスクを用いて、日本語母語話者、日本語非母語話者である中国語母語話者、韓国語母語話者の文脈における「テシマウ」の使用状況を明らかにすることである。調査の結果、タスクによって「テシマウ」が多く出現するものとそうではないものがあり、違いがみられた。「テシマウ」が現れた場合、いずれの対象者も、書き手の心情として望ましくない状況や出来事を表す文脈に使用していた。特に、文脈の主題あるいは話題の中心となる箇所に「テシマウ」が現れることが明らかになった。また、日本語母語話者の場合は物主語と共起する「テシマウ」を用い、「Vなくなってしまう」や「Nになっってしまう」を使用することが多いが、非母語話者の場合はそれがあまりみられないことを指摘し、今後の指導方法について提案した。

Key word: テシマウ、文脈、YNUコーパス、日本語母語話者、非母語話者



1. はじめに

日本語教育において初級で扱う補助動詞には「テミル」「テアル」「テシマウ」「テオク」などがあるが、このうち本研究では「テシマウ」に焦点を当て、日本語母語話者と中級以上の日本語非母語話者が「テシマウ」をどのように用いているのかを比較し、みることにする。

本研究では、YNU 書き言葉コーパス（以下 YNU コーパス）を用いる。YNU コーパスは、金澤裕之編（2014）『日本語教育のためのタスク別書き言葉コーパス』に収められているデータである。このコーパスは日本語母語話者、日本語非母語話者（以下、非母語話者）である中国語母語話者、韓国語母語話者を対象に 12 のタスクのデータを集めたものである。YNU コーパスの非母語話者は全体の結果をもとに上位群・中位群・下位群に分けられている。12 のタスクがあることから、単文にみられる「テシマウ」だけではなく、さまざまな文脈における「テシマウ」を観察することが可能である。

本研究では、YNU コーパスを用いて、日本語母語話者、非母語話者である中国語母語話者、韓国語母語話者の各タスクにおける「テシマウ」の使用状況について調査を行う。その分析の結果をもとに、従来言われてきた「テシマウ」の用法について文脈における「テシマウ」の使用という観点から再考することを目的とする。また、その結果をもとに「テシマウ」の指導方法について提案する。

2. 先行研究

本研究では、日本語母語話者と非母語話者の「テシマウ」の使用状況についてみるが、まず「テシマウ」の先行研究について概観する。

「テシマウ」についての研究は古くから研究が行われている。金田一（1955）によると、「テシマウ」には、終結態と既現態のアスペクト形式があるという。終結態は「完了する」という意味を持ち、既現態は「その動作・作業が実現する」という意味で用いられ、瞬間動詞とともに現れるという。金田一のとらえ方はアスペクトとしてであったが、高橋（1969）は、「終了」、「実現」、「期待外」の三つの用法があるとした。特に「期待外」はムード的用法としている。一方、吉川（1973）は、ある条件下でアスペクト的形式にもムード形式にもなると述べている。ムード形式では「対抗的」「逸走的」な用例がみられるという。寺村（1984）は、「テシマウ」は「二次的アスペクト」形式であるとし、「テシマウ」は終わったことに対する話し手の心理的反応を表すこと、非意志的、意志的双方に使えること、瞬間動詞についた場合「その事が起こってもはや起こる前の状態に戻ることにはできない」という心理をあらわすことなどを指摘している。守屋（1994）はさらに「テシマウ」はアスペクト的に「完結」の意味を持ち、同時に話者などの人物が主観的にとらえた「新事態」が出現し、それに伴う感情や心理を派生的に表現すると述べている。

こうした一連の研究を経て、現在の日本語教育における「テシマウ」について、学習指導書に

は「完了」と「残念（後悔）」の意味があることが示されている。例えば、学習者向けの文法書の『どんな時どう使うにほんで表現文型辞典』（友松他 2007）では、「全部、完全に、早く」済ませるということを心理的に強調する「完了」と、話し手が「失敗した・残念だ・困った」という気持ちを表す「残念」があるとしている。また、『初級を教える人のための日本語文法ハンドブック』（松岡他 2000）では、「テシマウ」は「完了」を表す形式の一つであるとし「無意志動詞+テシマウ」のときは後悔の意味になり、「～テシマオウ」のときは完了の意味になるとしている。

これまでの研究では、単文の用例をみた研究が中心であったが、近年の研究では文脈に注目している。大場（1999）は、「テシマウ」の解釈は相当に文脈に依存しており、それゆえアスペクトを表すように見えたり、話し手の情意を表すように見えたりすると述べている。また、金水（2004）は、非意志的な「テシマウ」の場合は、話し手にとって望ましくない出来事や状況を示す文が理由文や条件文によって表されることが多く、そのような文脈が示されなくても、話し手にとって望ましくないという文脈が潜在していることが容易にくみ取れると述べている。一色（2011）も、アスペクトとしての動作・作用の〈完了〉としての終結態の場合は、複数の出来事の継起的発生を表す複文あるいは重文という限られた文脈において現れやすいこと、動作・作業の〈実現〉としての既現態も発話状況も含めた文脈によって解釈されうるとし、文をまたがったの解釈をすることが必要であることを指摘している。

「テシマウ」の先行研究では、単文を扱った研究にはじまり、文脈での使用を見ることについての指摘はなされているが、特定の文脈においてどのような「テシマウ」が表れやすいのかについてはまだ言及されていないようである。また、用法として「完了」と「残念（後悔）」があることが言われてきているが、一色（2011）の指摘のように、文脈によってさまざまな解釈ができる可能性がある。本研究では文脈の中での「テシマウ」の使用に注目したい。

本研究の調査対象者は日本語母語話者、日本語を学習している、またはかつて学習していた中国語母語話者と韓国語母語話者である。学習者による「テシマウ」の使用についての研究は市川編（2010）を除くと、管見の限り見当たらず、学習者の「テシマウ」の使用状況はあまり知られていないようである。

学習者の母語で日本語の「テシマウ」がどのように表されているかについて見ると、中国語では、「完了」「後悔、残念」の意味を表す「テシマウ」に相当するものがなく、翻訳する場合、「完了」や「過去」を表す「了」で表現する。例えば「死んでしまいましたか。本当に気の毒ですね。（死了嗎？真是可憐。）」（『日語総合教程』2014）のように表す。したがって、中国語母語話者の場合、「テシマウ」が十分に出現しない可能性がある。

一方、韓国国立国語院オンライン版の辞書『国立国語院標準国語大辞典』¹⁾を見ると、韓国語の「動詞語幹+아/어 버리다 (a/eo beorida)」は補助用言として示されている。日本語の「テシマウ」と類似しており、この補助用言に前接する動詞の行為がすでに終わったことを表す。その結果、話し手が残念に思ったり、負担が軽減されたと感じたりすることを表すことができる。

韓国語母語話者の場合、類似している言語形式が母語に存在してはいるが、日本語母語話者のような「テシマウ」を使用することができるのだろうか。

3. 研究の目的

本研究では、YNU コーパスを扱うが、これらの資料を用いるのはタスクに沿った記述であり、文脈の中での使用を見ることができるからである。また、一つのタスクだけでなく複数のタスクを見ることができるので、文脈の中の複数の場面・状況について観察することができる。

この資料を扱い、本研究では、日本語母語話者、非母語話者である中国語母語話者と韓国語母語話者がどのような文脈において、どのような用法の「テシマウ」を使用しているのか、またそれぞれの母語話者によって違いがあるのかを明らかにすることを目的とする。さらに、その結果を踏まえ今後の指導方法についての検討を行う。

4. 調査

4.1 使用データと調査対象者

本研究では、YNU コーパスを用いる。この資料を用いるのは、前述したように「テシマウ」の使用がどのような文脈で使われているのを見ることができるからである。

YNU コーパスでは、表1に示したような12のタスクを扱っている。本研究ではYNU コーパスにおける日本語母語話者(30名)と非母語話者(中国語母語話者30名、韓国語母語話者30名)を対象に、12のタスクを用いて計1080編(母語別各グループ360編ずつ)における「テシマウ」の使用について見ることにする。非母語話者にはレベルを知るために事前にSPOT²⁾を行っているが、いずれも中級以上のレベルである。

YNU コーパスに対し、文字列検索を行い、該当件数と該当箇所を抽出する。文字列検索では、「テシマウ」の活用形である「テシマワ(ナイ)」「テシマイ」「テシマウ」「テシマエ」「テシマオウ」「テシマツ(テ・タ)」並びに、「デシマワ(ナイ)」「デシマイ」「デシマウ」「デシマエ」「デシマオウ」「デシマツ(テ・タ)」を抽出する。また、「チャウ」「ジャウ」についても同様に行う。

表1 YNU コーパスの12のタスク (☑はメールによるタスク)

1. ☑面識のない先生に図書を借りる	7. ☑先生に観光スポット・名物を紹介する
2. ☑友人に図書を借りる	8. ☑先輩に起こった出来事を友人に教える
3. レポートでグラフを説明する	9. 広報誌で国の料理を紹介する
4. ☑学長に奨学金増額の必要性を訴える	10. ☑先生に早期英語教育の意見を述べる
5. 入院中の後輩に励ましの手紙を書く	11. ☑友人に早期英語教育の意見を述べる
6. 市民病院の閉鎖について投書する	12. 小学生新聞で七夕の物語を紹介する

4.2 調査結果

調査の結果、「テシマウ」（含む「チャウ」）の使用件数については、次頁の表2のようになった。表中のJは日本語母語話者（以下J）、Cは中国語母語話者（以下C）、Kは韓国語母語話者（以下K）である。「件数」はそれぞれのタスクに現れた使用件数であり、「人数」はそれぞれのタスクにおいて30名中何名が「テシマウ」または「チャウ」を用いたかを示している。

まず全体の使用状況について見る。表2を見ると、YNU コーパス全体の「テシマウ」の使用数の合計は、Jは200件、Cは90件、Kは110件となっており、KのほうがCよりやや多いものの、CとKは、Jの半数程度しか使っていないことがわかる。

表2 YNU コーパスにおける「テシマウ・チャウ」

	タスク内容	J		C		K	
		件数	人数	件数	人数	件数	人数
Task 01	貸出依頼（先生）	0	0	1	1	0	0
Task 02	貸出依頼（友人）	0	0	1	1	4	4
Task 03	グラフ説明	4	4	3	3	3	3
Task 04	奨学金要望書	7	7	5	5	4	3
Task 05	お見舞いの手紙	17	13	11	9	12	10
Task 06	投書	37	23	7	6	5	4
Task 07	名所の紹介	1	1	1	1	0	0
Task 08	出来事描写	23	20	19	13	37	24
Task 09	料理紹介	3	2	2	2	0	0
Task 10	意見（先生）	10	10	0	0	1	1
Task 11	意見（友人）	7	6	6	5	8	7
Task 12	七夕物語	91	28	34	18	36	18
	計	200		90		110	

次に、タスク別の使用状況を見る。Jが「テシマウ」を多く用いたのは、多い順に、Task 12「七夕物語」（91件）、Task 06「投書」（37件）、Task 08「出来事描写」（23件）、Task 05「お見舞いの手紙」（17件）であった。Cが最も多く使用したのはTask 12「七夕物語」（34件）であった。次いでTask 08「出来事描写」（19件）、Task 05「お見舞いの手紙」（11件）、Task 06「投書」（7件）であった。Kが最も多く使用したのはTask 08「出来事描写」（37件）、次いでTask 12「七夕物語」（36件）、Task 05「お見舞いの手紙」（12件）であった。このことから、使用件数に違いはみられるものの、「テシマウ」が出現しやすいタスクはTask 06「投書」、Task 08「出来事描写」、Task 12「七夕物語」であると言える。

一方、「テシマウ」を用いるタスクでもJ、C、Kの間で出現数に違いがみられた。Task 06「投書」では、Jが37件であるのに対し、Cは7件、Kは5件で、Jの二割未満しかみられない。また、Task 08「出来事描写」で最も多く「テシマウ」を使用したのは、JではなくKの37件であり、Kの30名のうち24名が使用している。JはKより少なく23件で、20名の使用となっている。C

の使用件数は19件でJに近いが、13名の使用となっており、Jよりさらに少なくなっている。Task 12「七夕物語」はJの使用件数が多く、また「テシマウ」を用いた者が30名中28名であり、Task 12には「テシマウ」が使用されやすいことがわかる。一方、CやKはそれぞれ18名しか使用しておらず、Task 12における記述がJとは異なるようである。

「テシマウ」の使用が多くみられたTask 06「投書」、Task 08「出来事描写」、Task 12「七夕物語」のタスクに共通する点は、金水（2004）が指摘している話し手（書き手）にとって望ましくない出来事や状況について説明する記述がある点である。Task 06「投書」では「病院が閉鎖すること」、Task 08「出来事描写」では「お酒を飲み過ぎて倒れた」こと、Task 12「七夕物語」では「織姫と彦星が天帝に与えられた仕事をしなかった」ことである。

一方、三者ともに「テシマウ」を全く使用しないタスクもみられる。12のタスクのうち、Jの場合、0例のものから91例のものもあり、「テシマウ」が現れやすいタスクとそうではないタスクがあることがわかる。Jの「テシマウ」の使用が4例以下だったタスクは、Task 01「貸出依頼（先生）」、Task 02「貸出依頼（友人）」、Task 03「グラフ説明」、Task 07「名所の紹介」、Task 09「料理紹介」であるが、これらのタスクについては、単純に完了していることを説明する必要はあるかもしれないが、話し手（書き手）にとって望ましくない出来事や状況を説明する必要はないため、「テシマウ」は出現しにくいためであると考えられる。これらのタスクについてはCやKにおいても「テシマウ」の使用が少なく、その点についてはCやKは「テシマウ」を使わない状況であることは意識していると思われる。

以上のことから、次の点が明らかになった。

- (1) タスクによって「テシマウ」が出現しやすいものがあり、そのタスクは望ましくない出来事や状況について述べるタスクである。

4.3 各タスクにみられる「テシマウ」

本節では、「テシマウ」が多く出現したTask 06「投書」、Task 08「出来事描写」、Task 12「七夕物語」を中心に見ていくことにする。

4.3.1 Task 06「投書」にみられる「テシマウ」

Task 06「投書」は、以下のタスクである。CとKにはそれぞれの言語でタスクを与えている。

経営難のため、あなたの町では、市民総合病院の閉鎖が検討されています。この病院には近隣の町にはない産婦人科、リハビリテーション科があり地域住民への影響が心配されます。現行の診療体制での存続を求め、あなたの意見を新聞に投書してください。
--

まず、日本語母語話者（J）の場合について見ていく。このタスクに対し、例えば日本語母語話者のJ017は例1のように記述している。

例1 Task06「投書」J017

現在検討されている市民総合病院の閉鎖について、私は大いに反対だ。皆さんご存知の通り、総合病院には、産婦人科、リハビリテーション科がおかれている。これらの科は我が街の近隣には存在しない。つまり、妊婦の方やリハビリを望んでいる方は、この街を離れ、遠くの病院に入院するか、または引っ越しを考えなければならない人も出てくるだろう。現在、社会では少子高齢化が騒がれている。女性はもっと子どもを産むべきとされているが、その環境が整わない限り、この問題は決して解決されることはないだろう。環境を整備するはずの行政側が自らその環境をなくしていくというのはおかしい話である。さらに*我が街にも高齢者は多く暮しているが、その中でリハビリテーション科に通っている方も少なくないだろう。もし、病院が閉鎖されてしまったら、その人たちは一体どうすればよいのだろうか。病院からの送迎バスは出るのか、または、他の措置が取られるのか。病院がなくなることで困難な状況に置かれる人のセーフティネットを明確にしないまま、いきなり閉鎖をするのはいかなるものかと思う。よって、現状段では行政が何らかの形で財政支援をし、現行の医療体制を維持させるべきである。その上で、経営方針を見直したり、閉鎖するとしても、セーフティネットを明確に患者の方たちに示すなどの処置が必要となってくるだろう。（*原文では「されに」）

この記述において、書き手のJ017の「市民総合病院の閉鎖」に反対する強い気持ちが表れている。その結果、文脈全体として、望ましくない状況を言うために「テシマウ」を用いたのだと思われる。

Task06でJの「テシマウ」が現れた例を表3に示す。また、「テシマウ」に前接する述語を、意志性の有無によって「意志+テシマウ」「非意志+テシマウ」に分け、それぞれの出現数を示しておく。

表3を見ると、Jに共通することは、「非意志動詞+テシマウ」が多く使われていることである。意志動詞は「閉鎖する」（4件）、「拒絶する」「摘んでしまう」「引っ越してしまう」（各1件）のみである。

松岡他（2000）では、「無意志動詞+テシマウ」のときは後悔の意味になるとしているが、このタスクの場合は、書き手が後悔しているわけではなく、金水（2004）が述べるように、話し手（書き手）にとって望ましくない出来事や状況を示しているのだと思われる。

また、このタスクの主題は、病院の閉鎖について存続を求めることであるが、表3の例から、「(病院・産婦人科)がなくなる」（10件）、「病院が閉鎖される」（7件）、「病院を閉鎖する」（4件）という箇所において37件中21件（21名）で「テシマウ」を使っていることがわかる。「病院の閉鎖」という書き手が望ましくないと思っている出来事を述べる箇所、つまり、このタスクの中心となる文脈において「テシマウ」を使用していることが特徴的である。では、非母語話者の場合はどうだろうか。

表3 Task 06「投書」にみられるJの「テシマウ」

	例文	～テシマウ	数
1	病院がなくなってしまえば、高齢者の方々がわざわざ遠出しなければならなくなるので大変不便な事態が生じます。(J009) (非意志+テシマウ)	(病院・産婦人科が) なくなってしまう	10
2	もし、病院が閉鎖されてしまったら、その人たちは一体どうすればよいのだろうか。(J017) (非意志+テシマウ)	閉鎖されてしまう	7
3	市民病院を閉鎖してしまえば、産婦人科、リハビリテーション科を利用していた、または利用することになった住民はどこに行けばよいのか。(J025) (意志+テシマウ)	閉鎖してしまう	4
4	はたして、私たちの町は、この病院が閉鎖されたら、 <u>どうなってしまう</u> のでしょうか。(J003) (非意志+テシマウ)	どうなってしまう	2
5	このような環境になってしまえば、妊婦さんや増えつづける高齢者へのサービスの低下は避けられません。(J012) (非意志+テシマウ)	なってしまう	2
その他	行き詰ってしまう、いけなくなってしまう、奪われてしまう、困ってしまう、できなくなってしまう、出てきてしまう、眠れなくなってしまう、負担になってしまふ、難しくなってしまう (非意志+テシマウ) 拒絶してしまう、摘んでしまう、引越してしまう (意志+テシマウ)		12
		計	37

次に、中国語母語話者(C)の場合について見る。Cの記述から、「テシマウ」の箇所を抽出し、表4に示す。「テシマウ」に前接する述語についてもJの場合と同様の方法で示した。Cは6名が「テシマウ」を使用しているが、全7件の例文を示す。

表4 Task 06「投書」にみられるCの「テシマウ」

	例文	～テシマウ	数
1	老人たちや妊娠の女たちは遠くの病院へ行かざるを得ない状況になっ <u>てしまう</u> ことは予測できます。(C006) (非意志+テシマウ)		
2	早く病院に着かないと、悲惨な結果になっ <u>てしまう</u> かもしれない。(C046) (非意志+テシマウ)		
3	市民総合病院にはこの地域にない産婦人科とリハビリセンターを持っていて、閉鎖されると、近隣の住民たちが産婦人科とリハビリセンターに通う場合は、隣区の病院に行かざるを得ないことになっ <u>てしまう</u> 。(C047) (非意志+テシマウ)	なってしまう	4
4	この病院が閉鎖することになっ <u>てしまうと</u> 、これまでこの病院に通っている者がこれからどの病院に診療してもらえばいいのかという問題がありますが… (C058) (非意志+テシマウ)		
5	この病院にはこの近くにはない産婦人科とリハビリセンターがあって、もし病院が閉じられたら、ここの住民たちの医療に影 <u>響してしま</u> うのです。(C043) (非意志+テシマウ)	影響してしまう	1
6	資金調達が難しければ経営も苦しいということはよく理解できるが、これからのわれわれの生活を考えると、ちょっと不安に陥っ <u>てしま</u> う。(C039) (非意志+テシマウ)	陥ってしまう	1
7	〇〇区〇〇地域では、この病院の閉鎖で治療などに困っ <u>てしま</u> う人が大勢いることが予想されます。(C058) (非意志+テシマウ)	困ってしまう	1
		計	7

表4を見ると、Cの場合、Jと同様「非意志動詞+テシマウ」を使用しているが、表4の4番の「閉鎖することになってしまう」を除くと、「テシマウ」を用いて使用している箇所がJとは異なり、タスクの主題となる箇所ではない。Jの場合「病院」を主語にして「テシマウ」を用いているが、Cの場合は1番から3番は「私たちが…状況・結果になってしまう」、6番と7番は「私たちが不安に陥る、困る」となり、書き手である「私たち」の心情をそのまま示している。

さらに、韓国語母語話者(K)の場合について見る。Kの記述から、「テシマウ」の箇所を抽出し、表5に示す。Kは4名が「テシマウ」を使用しているが、5件の例文を示す。

表5 Task 06「投書」にみられるKの「テシマウ」

	例文	～テシマウ	数
1	特に婦人科やりハビリなどのサービスが受けなくなったら、〇〇町に住みたがる人々はもうなくなってしまうだろうし、…(K005)(非意志+テシマウ)		
2	もし、市民総合病院がなくなってしまうたら町の人々に及ぼす影響はすごく大きいと思う。(K006)(非意志+テシマウ)	なってしまう	3
3	その病院がなくなってしまうたら私たちは緊急な時、車に乗って遠くの病院まで行かなくてはならなくなります。(K029)(非意志+テシマウ)		
4	この病院が閉められてしまうと地えき[地域]の皆さんに与えられる大きな影響が心配になります。(K011)(非意志+テシマウ)	閉められてしまう	1
5	しかし、私はこの間、とても衝撃的なことを耳にしてしまった。(K006)(意志+テシマウ)	耳にしてしまう	1
		計	5

表5を見ると、Kの場合、Jと同様、5番を除き「非意志動詞+テシマウ」を使用している。Jのように「病院が」が主語になる「テシマウ」は2番、3番、4番で類似しているが、使用例自体が少ない。このことから、このタスクの場合、主題となる部分に「テシマウ」を使ったほうがいいという認識はないようである。

以上のことから、Task 06「投書」については、以下の点が明らかになった。

- (2) Jはタスクの主題となる箇所(望ましくない状況を引き起こす原因となる出来事)に焦点を当て「テシマウ」を使っている。
- (3) Jは「Vテシマウ」の主語が人ではなくて物であっても「病院が閉鎖されてしまう」のように「テシマウ」を使用している。
- (4) CやKの場合、主題の箇所に用いた「テシマウ」の使用数が非常に少なく、Cの場合は特に物主語の「非意志動詞+テシマウ」の使用数が少ない。

4.3.2 Task 08「出来事描写」にみられる「テシマウ」

Task 08「出来事描写」は、以下のタスクである。CとKにはそれぞれの言語でタスクを与えている。また、4コマ漫画が添えられている(漫画は省略)。

友達と以下のケータイメールのやりとりをしました。
あなた「ねえ、鈴木先輩が倒れた話、知っている？」 友達「へ、うそ！ 教えて！！」
先日あなたのクラブの先輩がちょっとした事件に遭ったという話を聞きました。(4コマ漫画)。
クラブの友達はその話を知りません。4コマ漫画を見て、どんな事件だったか友達に詳細をメールで教えてあげてください。漫画の主人公は鈴木先輩です。

4コマ漫画の1は先輩にお酒を飲まされている様子、2はカラオケで歌っているが倒れそうな様子、3は救急車で運ばれている様子、4は病院のベッドで朝目を覚ました様子である。

このタスクに対し、例えば日本語母語話者の J021 は次のように記述している。

例2 Task 08「出来事描写」J021

就職先の新入社員歓迎会でたくさん飲まれてカラオケいったらふらふらで倒れちゃったんだって。そのあと救急車で運ばれて病院で目覚ましたみたい。無事でよかったよね。

J021 の場合は4コマ漫画の2コマ目の「倒れる」ところを説明する際に「テシマウ」を用いている。この場合は、単純に「完了した」という意味ではなく、書き手が残念に思ったり後悔したりしているのでもないと思われる。

このほかにどんな箇所でも「テシマウ」を用いたのだろうか。文脈上どこで使うのかを確かめるために、コマごとに使用した動詞を抽出した。J、C、Kの使用した「テシマウ」を次頁の表6に示す。このタスクの場合、読み手が親しい友人であるため、「チャウ」を抽出している。

J、C、Kはともに2コマ目の様子に対し、最も多く「テシマウ」を用いている。Jは15件、Cは13件、Kは22件である。ストーリーのクライマックスである「倒れる」シーンに対して「テシマウ」を用いているのである。したがって、本タスクで「テシマウ」を用いると効果的なのは、書き手が最も強調したい出来事の箇所だと思われる。

Cは3コマ目と4コマ目の「テシマウ」の記述はないが、1コマ目と2コマ目で出現した動詞を見ると、Jの動詞に類似しておりTask 06「投書」よりは、自然に「テシマウ」を用いることができていると思われる。その理由として、J、C、Kのいずれが作った文においても、「テシマウ」の主語が主人公の「先輩」=「人」主語であることも関係していると思われる。

表6 Task 08「出来事描写」にみられるJ・C・Kの「テシマウ」

	J	数	C	数	K	数
1 コマ目	飲まされちゃう (2) 飲み過ぎちゃう (2) 飲んじゃう (1)	5	飲まされちゃう (2) 飲ませられちゃう (1) 飲んじゃう (2) 飲んじゃう* (1)	6	飲んじゃう (4) 酔っぱらっちゃう (3) 酔っ払ってしまう (2) 飲まされちゃう (1) 飲み過ぎちゃう (1) 座ってしまう* (1)	12
2 コマ目	倒れちゃう (12) 回っちゃう (1) 目回しちゃう (1) お酒が回ってきちゃう (1)	15	倒れちゃう (7) 倒れてしまう (1) 転んじゃう (1) 寝ちゃう (1) テンション上がったちゃう (1) 気を失ってしまう (1) ふらふらになっちゃう* (1)	13	倒れちゃう (12) 倒れてしまう (6) 歌いまくっちゃう (1) 酔っちゃう (1) 記憶飛んじゃう (1) 記憶飛んでしまう (1) 無理しちゃう (1)	23
3 コマ目	運ばれちゃう (2)	2		0		0
4 コマ目	びっくりしちゃう (1) (イラストの説明ではなくコメント)	1		0	病院になっちゃう (1) 入院しちゃう (1)	2
計		23		19		37

* 印のあるものは、活用に誤りがあるがカウントしたものと

KはJよりも総使用数が多かった。その理由について考えてみたい。例3はK009の例である。

例3 Task 08「出来事描写」K009

こないださあ、鈴木先輩入社して新入社員歓迎会をやったの。その時、上司たちが先輩に「飲め飲め！」とずっと勧めまくったんだけどさあ、やっぱり上司だから断れないじゃん。それでさんざん①飲まされちゃって②酔っ払ってしまったの、先輩があ。その状態のままカラオケ行って上司の機嫌に気遣い過ぎてえ、③歌いまくっちゃったの。しかもすっごい大きい声でえ。そしたら当然目まいしてくらくらさだろ？それで④倒れてしまったわけえ！でえ、救急車が来て、先輩を乗せてから病院に連れて行ったのお。翌日先輩起きたら、患者室の中に寝ていたんだってえ。超ウケるんじゃない？マジヤバイよねえ。

一つ目の理由は、「テシマウ」を使うべき箇所でない箇所に過剰に使用してしまったことである。K009の場合4箇所「テシマウ」または「チャウ」を使用している。守屋（1994）は感情や心理を派生的に表現する「テシマウ」には話者の心情を表す効果があると述べているが、「テシマウ」に話者の心情を表す効果があるとすると、聞いた話を伝える際に「テシマウ」を過剰に使用することは文脈すべてを強調することになり効果的ではないように思われる。このストーリーを伝える書き手の心情を表すためには、前述のようにストーリーのクライマックスである「倒れる」シ

ーンに対して、強調して「テシマウ」を用いるのがよいと思われる。

また、二つ目の理由は、「テシマウ」と共起しやすい動詞があるということである。K009は「②酔っ払ってしまった」のように「酔っ払う」に「テシマウ」をつけているが、このようにお酒を飲むことに関する「酔っ払う」「酔う」「飲む」「飲み過ぎる」に「テシマウ」をつけたものが、表6の1コマ目を見るとKの場合、「座ってしまう」を除くと11件あり、Jの5件よりも多い。このことから、Kは「酔う」や「飲む」などの語彙は、「テシマウ」と共起すると考えている可能性がある。韓国語の場合、これらの動詞が「+아/어 버리다 (a/eo beorida)」と共起するわけではないので、母語の影響であるとは考えにくい。

以上のことから、Task 08「出来事描写」については、以下の点が明らかになった。

- (5) Jは話題の中心（クライマックス）となる箇所に焦点を当て「テシマウ」を使っている。
- (6) 主語が人であるタスクの場合は、C、Kともに多くの「テシマウ」を使用している。
- (7) Kが「テシマウ」を多く用いるのは、「テシマウ」を使うべき箇所があるがそれを知らないこと、また、「テシマウ」と共起しやすい動詞があることが理由である。

4.3.3 YNU コーパスの task 12 にみられる「テシマウ」

次に task 12「七夕物語」の記述を見ることにする。このタスクは、以下の通りである。

あなたは、小学校新聞の昔話コーナーで、今の季節に合う昔話を書いてほしいと頼まれました。新聞の発行が7月なので「七夕伝説」のストーリーを書くことにしました。小学生にわかるように、どのような話が詳しく書いてください。

このタスクは、七夕の物語について自分の知っているストーリーを小学生に向けて自分の言葉で書くというものである。

表 7-1 Task 12「七夕物語」にみられる J・C・K の 1 人当たりの「テシマウ」の使用数

使用回数	人数 (名)		
	J	C	K
6 回	3	0	0
5 回	4	0	0
4 回	4	3	1
3 回	7	2	4
2 回	6	3	7
1 回	4	10	6
0 回	2	12	12
計	30	30	30
平均	3.03 回	1.13 回	1.20 回

前頁の表 7-1 は Task 12 「七夕物語」にみられる J、C、K の 1 人当たりの「テシマウ」の使用数を示している。J の場合多い人では 6 回も使用しており、平均 3.03 回使用している。一方、C で最も多かったのが 4 回（3 名）、K は 4 回（1 名）であり、全く使用しない者が 12 名ずついた。J の多くが「テシマウ」を使用していることから、このタスクは「テシマウ」を使って記述すると物語が効果的に伝えられるようである。

では、J の記述について見てみたい。J023 は例 4 のように記述をしている。

例 4 Task 12 「七夕物語」 J023

あるところに「おりひめ」という女性がいました。おりひめは毎日一生懸命はたをおっているまじめな女性でした。しかしおりひめは自分の身なりのことはあまり気にとめず、仕事にとりこんでいました。それを見たおじいさんはおりひめをかわいそうに思い、おりひめに合う相手を見つけてやることにしました。おじいさんが良い人はいないかと困っていると、まじめそうに牛の世話をしている男性を見つけました。名前はひこぼしと言い、おりひめとひこぼしは、お互いにひとめぼれし、とても仲の良い夫婦となりました。しかし、(i) 2 人とも仕事をしなくなってしまい、おりひめにおってもらっていたおじいさんの着物はボロボロになり、(ii) ひこぼしが世話をしていた牛は病気になってしまいました。このままではいけないと思ったおじいさんは、天の川の兩岸に 2 人を離ればなれにし、仕事をするよう言いました。すると 2 人は落ち込んで着物はいつそうボロボロに、(iii) 牛はますます病気が悪くなってしまいました。それを見たおじいさんは、1 年に 1 度だけ 2 人が会うことを許してあげることにしました。するとおりひめとひこぼしは、その日を楽しみに一生懸命仕事をするようになりました。そして、七夕の日にだけ 2 人は会うことができ、おりひめとひこぼしは再会を喜ぶのでした。(J023)

J023 は小学生向けを意識し、「ひらがな」が多く、平易な語を選んで記述している。そして、七夕物語の中で、書き手の心情として、「(i) 2 人とも仕事をしない」こと、「(ii) 牛は病気になった」ことや「(iii) 牛はますます病気が悪くなる」ことは、よくない状態だということを強調して「テシマウ」を用いているように思われる。このような物語を記述する際、書き手の感情を入れなくて書くことも可能であろうが、このタスクにおいては、表 7-1 からわかる通り、J は 30 名中 28 名が「テシマウ」を用いて、物語を説明している。その理由として、「読み手」の小学生を意識しているために、ストーリーをすべて知っている書き手は、伝えたいポイントを選択して強調して語るからだと考えられる。特に、書き手は当事者ではなく第三者として登場人物の心情をとらえることができるため、効果的に物語を伝えることができると思われる。「テシマウ」を用いなかったのは J009 と J020 の 2 名のみであった。このような物語の記述における「テシマウ」は、「完了」や「残念・後悔」というよりも、語り手の物語に対する心情を表すのに用いられていると考えられる。

次にどんな動詞に対して「テシマウ」を用いたのか見ることにする。表 7-2 は、J、C、K が「テ

シマウ」とともに使用した動詞とその数である。

表 7-2 Task 12 「七夕物語」にみられる J・C・K の「テシマウ」

動詞の例	J	C	K
V なくなってしまう	27	2	1
N になってしまう	18	1	4
N にしてしまう	5	0	0
怒ってしまう	4	5	2
引き離してしまう	4	0	0
枯れてしまう	3	0	0
降ってしまう	3	0	0
死んでしまう*	2	2	5
忘れてしまう	1	3	1
その他 (表 7-3)	24	21	23
計	91	34	36

表 7-3 Task 12 「七夕物語」にみられる J・C・K の「テシマウ」(その他)

その他		
J (24 件)	C (21 件)	K (23 件)
V ようにってしまう 溢ってしまう 困ってしまう 増える 分けてしまう (各 2) 計 10	V なくなっちゃう* 落ちてしまう (各 2) 計 4	AN になってしまう N がなくなってしまう 溢ってしまう 落ちてしまう やめてしまう (各 2) 計 10
A なくなってしまう N がなくなってしまう V ようになってしまう 行ってしまう がっかりしてしまう 被ってしまう 籠ってしまう 連れて行ってしまう 飛ばしてしまう* 泣き崩れてしまう 離してしまう 離れてしまう やせてしまう やめてしまう (各 1) 計 14	N になっちゃう 溢ってしまう 追い出されてしまう 作ってしまう できてしまう にってしまう* になってしまう 盗んでしまう 入ってしまう 始まってしまう 離れさせちゃう 離れてしまう 一目惚れしてしまう 増えてしまう 降ってきてしまう 見てしまう 別れさせてしまう (各 1) 計 17	A なくなってしまう V ことになってしまう V ようになってしまう 送ってしまう* 織ってしまう 倒れてしまう 捕まえてしまう* 離させてしまう 離れてしまう 氾濫してしまう ほったらかしてしまう 没頭してしまう 病んでしまう (各 1) 計 13

*印のあるものは、活用に誤りがあるがカウントしたもの

表 7-2 を見ると、J は「V なくなってしまう」は 27 件、「N なくなってしまう」は 18 件で、91 件中計 45 件、全体の半数がこのパターンで使用しており、C と K に比べ、その出現数は非常に多い。たとえば、「天の川という川をはさんで、二人は会えなくなっていました。(J001)」、「ひこぼしも同じで、ますます牛がやせて、病気になってしまいました。(J008)」のように用いている。これらの例は「マイナスへの変化」の「V なくなる」「V になる」に「テシマウ」を添えたパターンである。一方、表 7-3 に示した「その他」の動詞の例を見ると、挙げられている動詞は、J、C、K とともに「溢れる」「離れる」「落ちる」など、マイナスをイメージする動詞が使われている。類似の動詞を用いており、J、C、K の動詞の使用に大きな差があるようには思えない。

例 5 は、C002 が記述したものである。C002 は下線 (i) ~ (iv) の 4 箇所「テシマウ」を用いており、文章に現れる「テシマウ」の数は 4 回で C の中では多い。

例 5 Task 12 「七夕物語」 C002

(前半省略) 結婚した二人は仲がとてもいいし、毎日楽しく過ごしました。しかし、二人は毎日ラブラブしてばかりで、自分の仕事を (i) 疎かにしてしまいました*。それで、神様たちは大天帝さまに文句を言いにきました。「織姫は全然服を (a) 織らなくなっただんじやないんですか。私達の服を見てくださいよ。もうこんなに (b) ぼろぼろじやないんでしょうか。なんとかしてくださいよ……」「牛郎もちゃんとお牛を面倒を見てないですよ。餌をきちんと与えないため、牛の半分も (ii) 死んでしまいましたよ」とか、いろいろ文句を言いました。大天帝さまはそれを聞いて (iii) 怒ってしまいました。「両人を分かれさせ、一人を銀河の東に、一人を銀河の西に」と命じました。織姫はとても悲しくて、毎日泣いていました。そんな娘を見ていると、大天帝さまは心を痛みました。それで、毎年 7 月 7 日の夜だけ二人が会うことを許しました。二人とも会うことに待ち望んでいました。待ちに待った 7 月 7 日になりました。しかし、この日は大雨が降って、河の水は急に (iv) 増えてしまって、織姫は河を (c) 渡すことができなりました。織姫は相当困っていて、泣きそうになっているところに、急にどこからきた鵲の群が、橋のよう並んでいました。それで、織姫はこの橋を渡して、ようやく牛郎と会いました。これが織姫と牛郎の物語りでした。(*印のあるものは、活用に誤りがあるがカウントしたもの)

上記の文章の中で C002 が使用した下線部 (i) ~ (iv) の「テシマウ」は望ましくない状況のところを使っていて、違和感がなく、正しく使えていると思われるが、もし「V なくなる + テシマウ」や「N になる + テシマウ」を用いるとするなら、全箇所を使う必要はないが、(a)、(b)、(c) のような箇所での使用が可能である。例えば、(a) 「織らなくなっただんじやないんですよ」、(b) 「ボロボロになってしまったんですよ」、(c) 「渡すことができなくなっていました」である。

以上のことから、Task 12 「七夕物語」については、以下の点が言える。

- (8) J は物語の中で書き手の心情として、望ましくない状況であることを強調する際に「テシマウ」を使っている。

- (9) Jは、望ましくない状況になったことについては、マイナスの変化を表す「Vなくなる+テシマウ」や「Nになる+テシマウ」を多く用いて記述している。
- (10) CやKは書き手の心情として、望ましくない状況を示す際に「テシマウ」を用いるが、マイナスの変化を表す「Vなくなる+テシマウ」や「Nになる+テシマウ」はほとんど用いない。

5. 考察

本研究では、YNU コーパスを対象に補助動詞「テシマウ」の使用状況を調べ、12のタスクのうち、「テシマウ」が多く現れていた三つのタスク（Task06、Task08、Task12）を中心にその詳細を見てきた。その結果をまとめると、以下の通りである。

- (1) タスクによって「テシマウ」が出現しやすいものがあり、そのタスクは望ましくない出来事や状況について述べるタスク（Task06、Task08、Task12）である。
- (2) Jはタスクの主題となる箇所（望ましくない状況を引き起こす原因となる出来事）に焦点を当て「テシマウ」を使っている。
- (3) Jは「Vテシマウ」の主語が「人」ではなくて「物」であっても「病院が閉鎖されてしまう」のように「テシマウ」を使用している。
- (4) CやKの場合、主題の箇所に用いた「テシマウ」の使用数が少なく、特にCの場合は物主語の「非意志動詞+テシマウ」の使用数が非常に少ない。
- (5) Jは話題の中心（クライマックス）となる箇所に焦点を当て「テシマウ」を使っている。
- (6) 主語が人であるタスクの場合は、C、Kともに多くの「テシマウ」を使用している。
- (7) Kが「テシマウ」を多く用いるのは、「テシマウ」を使うべき箇所があるがそれを知らないこと、また、「テシマウ」と共起しやすい動詞があることが理由である。
- (8) Jは物語の中で書き手の心情として、望ましくない状況であることを強調する際に「テシマウ」を使っている。
- (9) Jは、望ましくない状況になったことについては、マイナスの変化を表す「Vなくなる+テシマウ」や「Nになる+テシマウ」を多く用いて記述している。
- (10) CやKは書き手の心情として、望ましくない状況を示す際に「テシマウ」を用いるが、マイナスの変化を表す「Vなくなる+テシマウ」や「Nになる+テシマウ」はほとんど用いない。

以上の結果を踏まえ、まず、文法の指導という面から「テシマウ」について考えてみたい。これまでの日本語教育における「テシマウ」は、友松他（2007）や松岡他（2000）で示されているように、「完了」や「残念・後悔」の意味として指導が行われてきた。しかしながら、上記の(1)(2)(8)の結果から、文脈に用いられている「テシマウ」は、「書き手の心情として望ましくない

状況や出来事を強調したいときに用いる」という方がよさそうである。

大場（1999）は、「テシマウ」の解釈は相当に文脈に依存すると述べている。また、金水（2004）や一色（2011）も文脈によって解釈されることを述べている。これらの研究は文脈に注目したほうがよいことを指摘しているが、文脈のどのような箇所に「テシマウ」が現れるかまでは言及していない。上記の(2)と(5)の結果から、書き手は文脈の中で主題となる箇所や話題の中心（クライマックス）となる箇所に「テシマウ」を用いることがわかった。特に、複数の文で構成される文脈の中で「テシマウ」を用いる場合は、どこにでも使用していいというわけではなく、意味のある箇所に使う必要がある。これらの結果は、いつどのような場面で「テシマウ」を使用すればよいかについて示唆しているものであり、指導の際には、「テシマウ」が現れやすい場面を取り上げると効果的ではないかと思われる。

次に、非母語話者の「テシマウ」の使用状況から考察する。非母語話者の母語との比較から、中国語には類似の表現がないが、韓国語には類似の表現があるということであった。YNU コーパスの非母語話者の場合数は少なかったが、Jと同じタスクにおいて「テシマウ」を多く使っており、母語の影響はあまり受けていないように思われる。ただし、Task08のみKが「テシマウ」をJより多く使った。その理由としては(7)に提示した通りである。

さらに、(3)(4)(6)の結果から、CとKは人主語の「テシマウ」は使用できるが、物主語の「非意志+テシマウ」の文をあまり使用しないことがわかった。この文が産出されにくい理由は、初級の導入の際、主に話し手本人が残念だと思ったり後悔したりすることを示す例が挙げられていることが考えられる。例えば「私は皿を割ってしまった」のような文である。したがって、物が主語の文はイメージしにくい。しかし、この文は「皿が割れてしまった」ともいうことができる。物主語があることを認識してもらうために、初級のうちから物主語の「テシマウ」の文があることを示しておくことよと思われる。

また、(9)(10)の結果から、CとKがあまり用いなかった言語形式は、マイナスの変化を表す「Vなくなる+テシマウ」や「Nになる+テシマウ」であることがわかった。KやCがこれらの表現を使用しない理由は、「Vなくなる」がそもそも習得の難しい表現である可能性がある。また、「渡れなくなってしまった」の場合、「渡る/可能形/ない/なる/シマウ」のように「渡る」という命題に対し、「テシマウ」に至るまで複数の活用を考えなければならない。したがって、「Vなくなる」までわかったとしても「テシマウ」に接続するのは難しい可能性がある。Jが「Vなくなってしまう」や「Nになってしまう」を多用していることから、よくない状況に変化した場合を表す際に、CやKもこの表現を利用できるといと思われる。そのためには、指導する際に「Vなくなってしまう」や「Nになってしまう」の例文の提示を多くすることや、「七夕物語」のようなタスクを与え、書き手が望ましくない状況を描写する際に「Vなくなってしまう」を使うように指示を出すといったことが考えられる。

6. おわりに

本研究では、YNU コーパスの「テシマウ」の使用状況から、「テシマウ」が文脈に現れる場合、書き手の心情として望ましくない状況や出来事を表す場合に使用されること、またその「テシマウ」はその文脈の主題あるいは話題の中心となる箇所にも現れることを明らかにした。また、非母語話者が「テシマウ」を使う場合、物主語の「テシマウ」が産出されにくいこと、「Vなくなってしまう」や「Nになってしまう」の使用が日本語母語話者と比較してあまりみられないことを指摘し、今後の指導方法について提案した。

「テシマウ」を文脈の中で見ることによって、これまで気づけなかった用法を見ることができ、非母語話者の実態に気付くことが可能になる。今後も文脈の中での「テシマウ」をはじめとする文法の使用状況について確かめていきたい。

注

- 1) 韓国国立国語院オンライン版の辞書『国立国語院標準国語大辞典』「버리다」(beorida)の項より引用(翻訳は筆者による)。<https://stdict.korean.go.kr/> (2021.1.5 アクセス)
- 2) SPOTは筑波大学留学生センターが開発したテストである。詳細は<https://ttbj.cegloc.tsukuba.ac.jp/>を参照のこと。

謝辞

本研究は科学研究費基盤研究(C)15K02658及び19K00734の助成を得た。

付記

本研究は、第1回国際日本語プロフィシエンシー研究シンポジウムで発表した内容の一部を加筆修正したものである。

参考文献

- 一色舞子(2011)「日本語の補助動詞「-てしまう」の文法化:主観化,間主観化を中心に」『日本研究』15、201-221、北海道大学。
- 市川保子編(2010)『日本語誤用辞典——外国人学習者の誤用から学ぶ日本語の意味用法と指導のポイント』スリーエーネットワーク、434-439。
- 大場美穂子(2002)「日本語の補助動詞「しまう」の意味」『マテシス・ユニヴェルサルリス』4(1)、143-157、獨協大学外国語学部言語文化学科。
- 金澤裕之編(2014)『日本語教育のためのタスク別書き言葉コーパス』ひつじ書房。
- 金田一春彦(1955)「日本語動詞のテンスとアスペクト」『名古屋大学文学部研究論集』X、金田一

- 春彦編（1976）『日本語動詞のアスペクト』むぎ書房 pp.27-61.
- 金水敏（2004）「文脈的結果状態に基づく日本語助動詞の意味記述」『日本語の分析と言語類型，柴谷方良教授還暦記念論文集』、27-35.
- 高橋太郎（1969）「すがたともくろみ」教育科学研究会文法講座テキスト、金田一春彦編（1976）『日本語動詞のアスペクト』むぎ書房 pp.117-153.
- 陳小芬著 譚晶華編（2014）『日語総合教程』上海外語教育出版社.
- 寺村秀夫（1984）『日本語のシンタクスと意味II』くろしお出版.
- 友松悦子・宮本淳・和栗雅子（2007）『どんな時どう使うにほんご表現文型辞典』アルク、185-186.
- 松岡弘監修（2000）『初級を教える人のための日本語文法ハンドブック』スリーエーネットワーク、47-48.
- 守屋三千代（1994）「シテシマウ」の記述に関する一考察『早稲田大学日本語研究教育センター紀要（6）、49-70.
- 吉川武時（1973）「現代日本語動詞のアスペクトの研究」『Linguistic Communications』（Monash 大）9、金田一春彦編（1976）『日本語動詞のアスペクト』むぎ書房 pp.155-323.

